

## Cassina NEW PRODUCT マルコ・ザヌーゾの名作をカッシーナが復刻

株式会社カッシーナ・イクスシー（本社：東京都港区、代表取締役社長：森 康洋）は、2016年2月3日（水）よりカッシーナの新作アイテムを展示発表いたします。

イタリアモダンデザインの起源とも言えるマルコ・ザヌーゾの作品がカッシーナのイ・マエストロ コレクションに

### ■ マルコ・ザヌーゾの統合的なデザインビジョン

建築家、デザイナーであり、大学の講師も務めていたマルコ・ザヌーゾ（1916-2001）は、モダン・ムーヴメントの先導者の一人でした。ミラノ工科大学で学び、戦後、エルネスト・ロジャースとともに雑誌ドムスの共同編集者を務め、ミラノ・トリエンナーレにおいてメダリア・ドーロやグラン・プレミオを幾度も受賞。コンパッソ・ドーロ賞も1956年～1985年の間に5度受賞しています。

デザインの美しさという枠を超えて技術革新、産業、流通、コミュニケーションの多様化を組み入れる「プロダクトの工業化」に興味を示したのは、ザヌーゾがイタリアで最初のデザイナーでした。

復刻生産されるような優れたモノの形状は、創造力、創作、社会的・文化的文脈をつなぐ具体的なプロセスの中で、機会、実験、革新が交錯して必然的に生み出されるものである、とザヌーゾは言います。

「私は自らのプロジェクトを通して、〈複雑〉と呼ばれるものに形を与えたい。」マルコ・ザヌーゾ

### ■ デザイナーと企業間の対話がコンテンポラリーデザインの量産を可能にする

このグローバルで相関的なデザインへのアプローチは、生産過程においてデザイナーが様々な技術と人の調和を図ることを必要とします。ザヌーゾは活発に企業との現実的な対話を行っていました。

それは新しい素材や技術の応用（アルフレックス社と行った成型ゴムとエラストリックベルトの実験）から、プリオンベガ社と取り組んだ電話やテレビの小型化にまで及びます。

このことから、マルコ・ザヌーゾが1965年9月30日ミラノで行われたカッシーナのLCコレクションのプレゼンテーションを訪れていたという事実は、今まで以上に納得できます。ル・コルビュジエ、ピエール・ジャンヌレ、シャルロット・ペリアンの新たな復刻作品に添えられたプレゼンテーションのテキストにロジャースはこう書いています。

「言葉で語るよりもカタチの中に時代の解釈が要訳されているという事実に、作品の本質がある。今日それらを体験することは、建築が常に求めるべき統合的な完成度の高さを解釈する機会でもある。」

これと同様の性質を、数多くのザヌーゾ作品に見てとることができます。技術的な変革の達成度とは別に、本質的な形に到達するために、発展的な研究を続けるという本来の価値観を見失わずにいるのです。

### 【日程】

青山本店：2月3日(水)～

名古屋店、大阪店、福岡店：2月4日(木)～

## 720 LADY (レディ)

デザイン: Marco Zanuso (マルコ・ザヌーゾ)

1951年、9回目のミラノ・トリエンナーレにて発表され、メダリア・ドーロを受賞しました。「LADY (レディ)」はモダニティのアイコンであり、従来のアームチェアの製造方法にとって代わり、パーツを別々に製造しそれらをアッセンブルするという技術革新、素材革新において重要な役割を果たしたプロダクトでもあります。

ザヌーゾのグラフィカルな表現を観察すると、そのデザインプロセスが彼の工業デザインに対する象徴的なアプローチであることがわかります。実際、彼は自動車産業から見出したデザインメソッドを使用しています。様々なパーツを書き出し、それらすべてがどのように相互作用しあっているかをチェックしているのです。素材も自動車産業から成型ゴムと弾力のあるエラストックベルトを採用し、最初のモダンなアームチェアが披露されました。

この技術的かつ方法論的な革新は、異なる構成要素に規則的な調和をもたらしました。シート、バックレスト、サイドはそれぞれ体のパーツが及ぼす圧力に合わせてパディングの硬さも異なるレベルで設計されています。

今日、「LADY」の美しさは、新たにファブリックのラインナップに加わったKVADRAT/RAF SIMONSのファブリックによって一層アップデートされました。

黒と白のチェック柄の張地にマットなバサルト色の脚部の組み合わせは、ファーストモデルの一つです。ザヌーゾ作品の文体的で幾何学的、文化的連続性を強調しています。

W770 × D840 × H460 (SH380) mm ¥470,000～



本カタログの価格は全て税抜表示です。

## 721 ANTROPUS (アントロプス)

デザイン: Marco Zanuso (マルコ・ザヌーゾ)

1948年ミラノのピッコロ・テアトロで上演された最初のコメディ作品の一つが、アメリカの劇作家ソーントン・ワイルダーによる「危機一髪」でした。1952年エルネスト・ロジャースとともに劇場の内装をデザインしたザヌーゾは、この演劇の舞台美術もデザインするよう依頼されます。彼が実験していた新素材を用いた「ANTROPUS (アントロプス)」というアームチェアを劇中にも使用。全体を張り込んであるこのアームチェアは大きく快適なシートを創出するその深い奥行が特徴で、横顔は滑らかな輪郭が美しく優美な佇まいが魅力です。

ピンク色のファブリックを使用したアイコン的なエディションは、オリジナルデザインを反映しています。

W770 × D1020 × H860 (SH410) mm ¥470,000～



本カタログの価格は全て税抜表示です。

## 722 WOODLINE (ウッドライン)

デザイン: Marco Zanuso (マルコ・ザヌーゾ)

シートの耐荷重要素を固定する支持構造に対するザヌーゾの研究は、1949年N.Y.のMoMAで行われた国際デザインコンペティションで披露されたアームチェアのプロジェクトにまでさかのぼります。

1964年、より進歩した技術的背景の中で、ザヌーゾは「WOODLINE (ウッドライン)」で耐荷重構造について研究を続けました。

「WOODLINE」は円の幾何学様式に基づいた鋳型から発展させた木製版で、構造全体に規則的な精密さが感じられます。

ウォールナットの木製フレームにベージュのレザーパネル、タバコ色のレザークッションの組み合わせが、オリジナルデザインです。

W740 × D890 × H720 (SH380) mm    ¥770,000 ~



本カタログの価格は全て税抜表示です。